ベリッシマ乗船記 2023

旅のチカラ研究所

2023 年 7 月

旅のチカラ研究所　植木圭二

MSC のクルーズ船「ベリッシマ」に乗って西日本各地と韓国のチェジュ島を 9 日間で巡ってきた。この船は今まで日本に来たクルーズ船では最大で、17 万 2 千トン、大きさだけでなく最新鋭なので内容についてもカジュアル船と思えない充実ぶりだった。

【MSC ベリッシマ　韓国チェジュ島にて撮影　船尾最上部にウオータースライダーが見える】

■予約・キャンセルの繰り返し

2023 年 6 月 12 日午後 3 時、私と妻は横浜の山下公園からシャトルバスに乗って大黒埠頭に向かっている。雨模様の空の下、山下埠頭のガンダム・ファクトリーからガンダムがニョキと上半身を出して、私たちを見送ってくれる。

私たちの心境は、やっと MSC ベリッシマに乗れるというもので、その理由はこの船への予約・キャンセルを何回も繰り返していたからだ。

【山下埠頭のガンダム・ファクトリー】

話は 2019 年に遡る。私たち夫婦はジャパネットクルーズで MSC スプレンディダのクルーズに乗った。その縁あって 2021 年に再びジャパネットクルーズで MSC の最新鋭船ベリッシマの 2022 年のクルーズを予約した。しかしコロナで中止になり、同じ料金で乗れるというので 2023 年に順延させた。この時の料金は 1 人 219800 円、窓のない内側船室だった。

ところが同じベリッシマで別のコースが、バルコニー付き海側船室 1 人 149000 円で乗船できるという情報が別の旅行会社から入った。こちらのクルーズは日数が 1 日短いとか、ジャパネットクルーズは飲み放題付だとかで単純に比較はできないが、当然のように 149000 円を予約して 219800 円をキャンセルした。

その後、私たちの日程の都合で 149000 円をキャンセルせざる得なくなり、ジャパネットクルーズを再度予約した。この時点で 2 年前と比べて 2 万円位高くなっていた。

しかし日程の問題が解決して再び 149000 円のクルーズを予約しようとしたが、空きがなくキャンセル待ちで申し込んだ。クルーズに限らないが、キャンセル料金が発生する直前にキャンセルが多く出る。案の定、キャンセル待ちは本予約になった。そしてまたジャパネットクルーズをキャンセルした。

しかし、その後ジャパネットクルーズから特別モニター企画という案内が届く。内容は 13 日間日本一周クルーズが全てのカテゴリーでほぼ 3 割引になるというものだ。さすがにキャンセル料金や日程な問題もあって乗り換えはやめたが、この業界の状態がよく分かる。

その状態とは、コロナが明けて MSC の大型客船が来て業界に活気が戻ると思ったが、あまり集客が伸びずに苦しんでいるという状態だ。元々日本人は長期休暇が取り難いとか、何もしないで時間をゆっくり過ごすという旅行スタイルが得意でないということに加えて、コロナ蔓延の初期にダイヤモンドプリンセスの騒動があったからだろう。

私はこの状態を危惧している。個人的な願いは多くの日本人にクルーズで感動体験をしてもらい、その感動によって活力を得て日本の再生・発展、そして人類の幸福に繋がって欲しい。それはクルーズに限ったことではなく全ての旅にも通じるものと信じている。

唐突ながら MSC にという会社を紹介しておく。正式名 Mediterranean Shipping Company だから地中海海運とでも訳すのだろう。世界第 4 位の海運会社で、子会社に MSC クルーズという会社があって、クルーズ船を 23 隻も所有している。本社はスイスだが、運行部門はイタリアのナポリなのでイタリア色が強いが、ベリッシマの船籍はマルタになっている。

【MSC ベリッシマ】

■この船はでかい

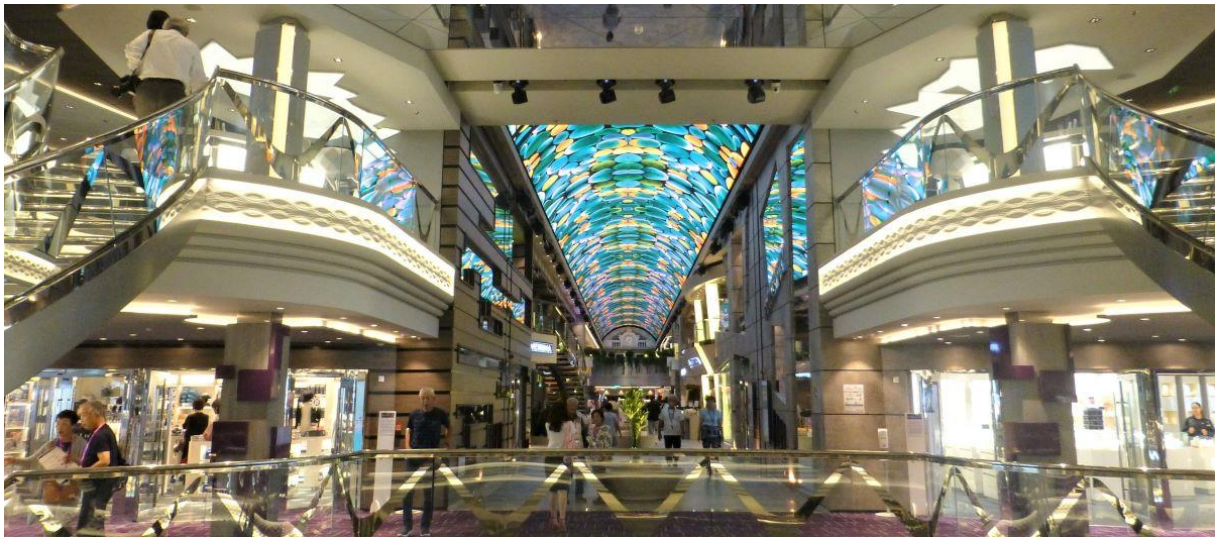
ベリッシマは大きい。いや“でかい”という言い方が合っている。今まで日本に来たクルーズ船の中で最大の 17 万 2 千トン、全長 315m、全福 43m、高さ 65m、エレベータは 19 階まである。

私が過去に乗った最大の船はMSCのスプレンディダで、13万8千トン、16階だった。スプレンディダも大きかったが、ベリッシマの方がひと回り大きい。さらにスプレンディダは2009年就航だが、ベリッシマは2019年就航だから、新しさも手伝ってより豪華に見える。

船内の最大の特徴は中央部分の6階と7階を吹き抜けにしたプロムナードだろう。長さ約100mのプロムナードに沿ってレストランやブティックなどが並んでいる。

かまぼこ型の天井はLEDスクリーンになっており、通常は模様や風景のようなものが映し出されている。時間を決めてこのスクリーンに地球の歴史や人類のあゆみのようなストーリーの動画と音楽が流れる。

【6階と7階を吹き抜けにした中央のプロムナード】



【反対方向から見たプロムナード】

運動や娯楽設備も充実している。プールが 4 つあって、船の中央 15 階には一番大きなプールがある。プールの前にはステージと大型スクリーンが設置され、体操やダンスなどの各種エクササイズ、さらに夜になると映画も上映される。その隣のプールは全天候型で、ガラス張りの屋根は開閉可能になっている。プール以外にボーリング場、卓球場、ジム、体育館と各種揃っている。

娯楽といえば、外国船なのでカジノもある。日本の領海から出て公海になれば日本の法律は適用されないので、その船の船籍の国の法律が適用されるためカジノも楽しめる。

ベリッシマはカジュアル船というランクの船で、大衆向けなのでクルーズ初心者にも敷居が高くない。どちらかというと家族連れやグループ向けと言った方が良いかも知れない。

ちなみにクルーズ船は 3 段階にランク分けされ、乗船費用や乗客 1 人当りの乗組員の人数などによって分類される。最も格調高いのがラグジュアリー船で、その数はクルーズ船全体の 4%しかない。その次はプレミアム船で全体の 12%、その他がカジュアル船になる。

世界のクルーズ船の総数は約 300 隻といわれているが、残念ながら日本船籍のクルーズ船はたった 3 隻しかない。これも日本におけるクルーズ需要が伸び悩んでいることを表している。

【船中央のプール　正面にステージとスクリーン】

船のランクと大きさはイコールではないが、クルーズ初心者には大きな船ほど豪華で格調高いと勘違いしている人が多い。恥ずかしながら私も昔そう思っていた。しかし実際には乗船費用を抑えるために多くの乗客を乗せる必要からカジュアル船ほど船体が大きくなるという傾向がある。

■船室

私たちの船室は 13 階、バルコニーから見る景色は圧巻で、みはらしが良い。港の桟橋に接岸していても高層ビルの上から見下ろす感じだ。

私たちが使うバルコニー付きの船室はもう少し広いと思っていたが、正直言ってそれほど広く感じない。この船の船室は全部で 2217 室、バルコニー付きは 1418 室なので、半分以上はこれと同じ広さになる。カジュアル船の場合はなるべく多くの乗客を乗せる必要があるので仕方ないことなのだろう。それでも夫婦 2 人で過ごすのであれば、窮屈さは全く感じない。

最新鋭の船なのでトイレやシャワーも新しい。トイレはウォシュレット付きでないのが残念だが、外国船でウォシュレットが付いた船には乗ったことがなく、そもそも海外の普通のホテルでもウォシュレットがないのだから望むべくもない。シャワー室は水が外に漏れない構造になっている。この構造を説明するのは難しいが、透明のプスティック製の扉の密閉性が高く、非常に使いやすい。

【船室内部　左がバルコニー側　右が入口側】

船室の入口の内側には DND と、MAKE UP ROOM と 2 つのスイッチがあってドアの外の表示ランプと連動している。私は最初この DND の意味が分からなくて、近くにいたクルーに聞いたら「Do Not Disturb（起こさないでください）」のことだと教えてもらった。そしてこれは単なる表示だけではなく一括管理されているのでクルーの控室でもこのスイッチの状態が分かるようになっているらしい。

テレビがあり、日本の BS 放送や映画などを観ることができる。子供向けのアニメなどは無料だが、ほとんどの映画は有料で 9 ドル取られる。これもカジュアル船の宿命か、クルーズの基本料金を下げるために取れるところから取るという発想で仕方ないのかもしれない。

ベリッシマは大きく、そして最新鋭船なので出港の時の振動も小刻みな揺れも全く気が付かない。そのため実に静かに横浜港を出航する。しかしながら外洋に出ると多少横揺れを感じる。それは高さがあるので他の船に比べて横揺れし易いのだろう。

■食事

レストランは 12 カ所あり、簡単に言うとビュッフェレストラン、コース料理のメインレストラン、各種専門料理の有料レストランの 3 種類に分かられる。

ビュッフェレストランは夜中を除いてほとんど開いている。いかにもイタリアというピザやパスタを中心に、洋食はほぼ揃っている。特にスイーツはチョコレート類が充実している。日本食もあり、ご飯に味噌汁、漬物、納豆、明太子、梅干し、麺類、カレーなど食べられる。

メインレストランで食べるコース料理は船を評価する大きなファクターになるが、多くのカジュアル船ではあまり期待できない。それを裏付けるように前回乗ったカジュアル船で同じ MSC のスプレンディダの旅行記に私は以下のように書いている。

「スプレンディダのレストランの料理については正直な感想を述べると、味も含めていま一つというところだろう。肉や魚にしても見た目でも食欲をそそる魅力が感じられない。それが証拠に料理の写真は 1 枚も撮っていない」（旅行記「MSC クルーズ 2019」参照）

ところが今回のベリッシマでは食事の写真を撮っている。やはり何かが違うのだろう。

【主菜の肉料理（左）とロブスター（右）】

料理の内容だけでなく料理を選ぶ場合、スプレンディダでは二者択一で魚か肉かを選ぶようになっていたが、ベリッシマは片方だけでなく魚も肉も両方とも選ぶこともできる。これはプレミアム船のダイヤモンドプリンセスでは当たり前だったが、この船でも可能になっているのに驚く。

私たちは朝食と昼食のほとんどはビュッフェレストランで食べているが、メインレストランの朝食はどんなメニューで出てくるのか興味があって食べに行った。

洋食か和食かのセットメニューを選ぶようになっており、これは両方と言う訳にはいかず、和食を頼むとビュッフェレストランの日本料理がひと通りお盆に乗って出てきた。

さすがにご飯と味噌汁の配置が左右逆になっているのは致し方ないだろう。

【朝食の和食セット　ご飯と味噌汁の配置が逆】

有料レストランは寿司、ステーキなどの専門店になっているが、今回私たちは利用していないのでコメントは控えよう。ただ全てドル建てなので、現在は円安でかなり高く感じられる。

■エンターテインメント

クルーズの楽しみと言えば食事以外にはエンターテインメントがある。この船には約 1000 人を収容できるロンドンシアターという劇場があり、ここで毎晩は各種ショーが催される。

その予約システムがなかなか進んでいる。船の各所にタッチパネルになっている大きなモニターがあって、船内の案内表示の他にショーやレストランの空き状況が分かり、船室のカードキーと兼ねた乗船カードをかざすと簡単に予約できる。

あるいは船内専用の Wi-Fi を利用して乗客自身のスマホでも同様なことができる。

私たちは毎晩このシアターに足を運びショーを堪能した。ショーはマジックショー、ロックフェスティバル、ミュージカル、バラエティーショーなどで、船の専属バンドやダンサーが行う場合もあれば、ゲストのマジシャンやミュージシャンが行う場合もある。

そしてこれらのショーは全て 35 分という比較的短い時間で終わる。この 35 分というのが実に絶妙な時間で、自分の好みの内容ならば少し足りないと思うが、そうでない場合でもそのくらいの時間ならば苦にならない。実際に私もそれによって苦手な分野も含め様々なジャンルのショーを体験することができて、視野が広がった。

この 35 分という時間は、世界各地の老若男女を相手にしている MSC ならではのノウハウかもしれない。私も今後行う講演会は 35 分にしてみようと思い始める程だ。

35 分の全てのショーを観劇して私の心に残ったのは以下の 2 つのステージだ。

ひとつは地球の生い立ちや大自然をテーマにした迫力満点のミュージカル風の創作劇で、映像と照明、大道具・小道具を上手く使って大迫力なステージを創っている。そこに踊りと歌を組み込んで大自然誕生の物語を演出していた。

もうひとつは船の専属バンドによる演奏と歌で、選曲が良く考えられている。AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」、ビートルズの「ヘイジュード」と「レットイットビー」、SMAP の「世界でひとつだけの花」などを外国人ボーカルが歌ってくれた。昔ならば上を向いて歩こうなどの定番ソングが歌われたが、時代が変わったと感じる。

【ロンドンシアターのショー】

■乗客たち

乗客は最大定員が 5655 人ということだが、レセプションで聞いたら今回のクルーズでは約 3500 人が乗船していると言っていた。

パッと見た目、日本人が半分くらい、そして欧米人と中国系が多く、他のアジア諸国の人も見かける。実に国際色豊かになっている。コロナ禍は外国船の運航がなく、最近の私は外国人があまりいない日本船に乗っていたので新鮮な気持ちになり少しワクワクしてくる。

乗客の多様性は国籍だけでなく年齢についても感じられる。もちろん中高年は多いが、小さな子供や乳児を連れた家族連れ、小中学生や 20 代の若者も時々目に留まる。だからクルーズは異文化・異世代の交流の場なるのだろう。

【レストランの食事風景　欧米系の外国人が多い】

私がプールで泳いでいると、グラマーでボリューム満点の体格をした外国人の若い女性グループに、若い日本男児たちが声を掛けている。これは国際ナンパというものだろうか。彼女たちはイタリア語を話しており、日本男児は日本語と英語を駆使して話しかけているがどこまで通じているのか。それでも何とか盛り上がっているから、国際ナンパは成功しているようだ。

ナンパとは関係ないが、プールの水は塩辛いから海水を使用している。私が最近乗った船では珍しい。

【プールサイドの乗客たち】

朝食のレストランで同じテーブルに座った名古屋から来たKさん夫妻と話をする。旅行やクルーズに興味があって人生をもっと楽しみたいと言っている。ピースボートの地球一周クルーズにも乗りたいとのことで、私たちは先輩風を吹かせてそのことを話すと、興味深く聞いていた。

寄港地でたまたま知り合った新潟のYさん夫妻は、旅行好きで月の半分は旅行していると言っている。旦那さんは数年前に定年退職直後にファーストクラスの世界一周チケットを使って世界遺産のスペインの巡礼路などを旅行した。私がそのチケットを使って夫婦で世界一周を計画していることを話すとその話で盛り上がる。

行く回数が多いから価格についてはかなり調べているとのことで、今回のクルーズはいくらで乗って来たかを聞くと、内側船室で88000円というから凄い。ついでにどこの旅行社かを聞くと「ベストワンクルーズ」と教えてくれた。

他の乗客に聞いても内側船室で10万円という人はいたが、この88000円が最安値だろう。私たちの149000円もまだまだだったと痛感する。

女性を含めた大学生10人ほどのグループには、先生と呼ばれている初老の紳士がおり、大学のゼミの合宿で来ているという。ゼミの合宿がクルーズ船とは、何と豪勢な話だ。

しかしよくよく考えるとそう豪勢でもない。仮に88000円で乗船してきたとすれば、決して高くはない。何よりも海外も含めた寄港地と船内生活は、学生たちにとっては良い体験になる。

それにしてもこのゼミはどんな研究をしているのか、聞けば良かったと後悔する。

■寄港地

今回のクルーズの最初の寄港地は神戸港で、大歓迎を受ける。消防船による放水、鼓笛隊の演奏、クルーズターミナルのビルの屋上には大勢の見物客もいる。私はそれを13階から見おろすことになり、やや優越感に浸る。

【神戸港の歓迎風景】

神戸に上陸して友人たちと再会する。ベリッシマを見て、その大きさに驚愕している。その友人たちとは 6 年前の地球一周クルーズで知り合った連中で、大型のクルーズ船は見慣れたものなのだが、それでも「この船は、デカい！」を連発している。

友人のひとりが本日の神戸新聞を持ってきてくれた。そこにはベリッシマ来港のことが写真付きで大きな記事で載っていた。

次の寄港地の広島に着く。しかし船が大きいので先日の広島サミットが開催された宇品島近くの広島港ではなく、中心街から離れた五日市駅近くの貨物用の埠頭に接岸する。

五日市駅までシャトルバスに乗って、駅近くの「コイン通り商店街」にやって来る。ここは造幣局があるのでそんな名前が付いているらしい。

3 階建てのビルの屋上に「金持稲荷神社」という珍しい神社がある。2001 年に出来た神社で、ビルのオーナーの酒屋の主人が伏見稲荷で資格を取って開いたと書かれている。神社でも資格があるのかと、初めて知る。

【金持稲荷神社】

お好み焼き屋に入る。広島に来たらお好み焼きを食べることを目的にしていたので、まずは目的を達成する。そして店の片隅にあるテレビを何気なく見ていると、何とベリッシマが映っている。それも生中継で船を背景にして興奮気味にアナウンサーがしゃべっている。

偶然隣に座った乗客の夫婦（新潟の K さん夫妻）と店の女将もそのテレビに気がついて、中継を食い入るように見始める。そして私が女将に「僕らはあの船で来ました」と言うと、女将は「料理はどうなの？」、「高いのでしょう？」などと質問が矢継ぎ早に出てくる。私は「そんなに高くはないですよ」と言うと、彼女は「お金も問題だけど、お店が長く休めないから」と言っている。

やはり日本におけるクルーズはなかなか黎明期を抜け出せないと感じる。

チェジュ島（済州島）に着く。私は島の北岸の済州市に着くと思っていたら、南岸の西帰浦市の江汀港国際ターミナルに接岸する。船からは港に隣接した韓国海軍の基地が見える。その向うには韓国最高峰の標高 1950m のハルラサン（漢拏山）も見える。

【ベリッシマ船上から見た海軍基地とハルラサン】

ここから市街地まで遠いためシャトルバスが出ている。しかしバスは有料で1人15ドルもする。広島は無料だったが、何故ここは有料なのか、韓国だからか、よく分からない。

私たちにとってチェジュ島は2回目の訪問で、前回は日本語が通じるタクシーを1日チャーターして観光名所を巡った。今回は住民が普通に暮らす“普段着の街”を体験したく港近くを散策することにしていた。港から歩いて行くと小学校があって、近くの商店で韓国製の菓子などを買い土産にする。クルーズは寄港地でどう過ごすか目的を決めておくことが肝要だろう。

チェジュ島では早めに帰船したので、レストランでコーヒーを飲んでいると面白い光景を目にする。船の外側のガラス窓を清掃する専用リフトがあって、それにクルーが乗って、洗剤と水を掛けてレストランの窓を洗っている。新鋭船ではこんなものまで装備しているのかと感心してしまう。

【窓掃除の様子】

鹿児島に着く。ここも繁華街に近い鹿児島港ではなくて遠く離れた「マリンポートかごしま」に接岸する。駐車場にはたくさんのバスが並んでいる。オプショナルツアーに乗客を連れて行くバスで、数えると31台もある。地元のバスや観光関係者から嬉しい悲鳴が聞こえてきそうだ。

オプショナルツアーに参加しない乗客は中心街までシャトルバスを利用するのだが、これが今回も有料で1人18ドルもする。チェジュ島は韓国だから有料だろうと勝手に思っていたが、どうやら違うらしい。

関係者に取材すると、大型客船の着く貨物船の埠頭は不便なので、繁華街で多くお金を使ってもらうために地元自治体などが入港に合わせてシャトルバスをチャーターしていることが判明する。しかし地元がそこまではやらない場合は船の運航会社がチャーターすることになり、この船はカジュアル船ということもあってMSCは少しでも収益を上げようとしているのだろう。

地図を見るとマリンポートかごしまから最寄り駅まで約 2km なので歩いても行けるが、あいにくの雨で歩く人はほとんどいない。タクシーで行っても 18 ドル（約 2500 円）はかからないからタクシー乗り場の乗車待ちの行列は果てしなく続いている。

私たちはもともと鹿児島上陸の目的を市内にたくさんある立ち寄り温泉に入りに行こうと考えていたので、この状況を見て上陸を諦めて船内でのんびりと過ごすことに変更する。

3 時のお茶としてビュッフェレストランでコーヒーを飲んでいると、後ろの席ではオプショナルツアーから戻った人たちが不満を漏らしている。

「今日のツアーは雨で何も見えなくてつまらなかった。昨日のチェジュ島のオプショナルツアーも何も面白くなかった、プレハブ小屋の免税店、ロッテも単なるデパート、韓国らしさを期待していたが、期待以下だった」と言っている。

私は耳をダンボのようにして彼らの話を聞いていたが、少し呆れてきた。全てが受け身で全てが人任せだ。どんな些細なものでもいいから何か目的を決めて寄港地に降り、自分から旅を楽しもうとすることが充実したクルーズにするコツだと思う。

鹿児島入港のこの日は 6 月 18 日で父の日になっている。父の日は国によって異なり、日本や欧米の主要国は 6 月の第 3 日曜日、イタリアは 3 月 15 日、MSC 本社のあるスイスは 6 月第 1 日曜日になっている。

まあ、そんなことはどうでもよくて、レストランにはその記念のチョコレートケーキが飾られている。

【父の日のケーキ】

■最終日のハプニング

最終日、横浜に戻ってくる。入港時間は朝 7 時、そして私たちの下船時刻は 11 時を指定されている。3500 人もいるので時間差をつけないと下船口がごった返すから当たり前のことだろうと思っていたが、驚いたことに全ての船室を 7 時に開けて欲しいという。午後になると次のクルーズ客が乗ってくるから、準備に時間がかかるためだろうと、この時は軽く考えていた。

私たちは朝食を食べたレストランでコーヒーをひたすら飲んで 4 時間近くを過ごす。

ようやく下船の時間になり、下船口に行くと妻の乗船カードがエラーになり出られない。係員からはレセプションに行けと告げられて、行ってみると多くの乗客がレセプションに並んでいる。近くにいたスタッフに聞くと乗船カードとクレジットカードが紐づけされていないケースがほとんどだと言っている。紐付けされていないとサービス料などを下船前に現金で払わないといけなが、既に現金精算の対応時間は過ぎている。

そういえば昨日のことだが、妻の乗船カードで船内の店で買い物をしようとしたがエラーになって私の乗船カードで支払ったことを思い出した。そのことから私はてっきりその紐づけの問題と思って機械で紐づけ処理をした。

これで問題は解決しただろうと再度下船口に行くが再びエラーになり、またレセプションに行けと言われる。これには私も“たらい回し”にされているようで腹立たしくなってくる。レセプションには私たち同様に出られない乗客が並んでおり、誰もがご立腹のようで乗客同士で口論が始まる始末だ。

そんな状況で並んでいる時に妻が「ポシェットがない。どこかに忘れたらしい」と騒ぎ始める。朝食を食べていたテーブルか、下船の集合場所のラウンジかどちらかだろうと私が言うと妻は慌てて捜しに戻る。

間もなくしてレセプションの順番が回って来て、たらい回しにされた私は半分怒りながら妻の乗船カードを出すとスタッフがバーコードを読み取って確認する。そして予期せぬ言葉が返ってきた。

「お客様、船室に忘れ物がありましたので、お渡しするために下船を止めさせていただきました」と言っている。そして受付の奥から妻が忘れたというポシェットを出してきた。

これには驚いた。全く予期していなかった。

私は今までの怒りの感情を一瞬のうちに抑え込んで、今度は感謝の言葉を発しなければならない立場に変わり、「えー！あーそう、あ、あ、ありがとうございます」と返答するのが精いっぱいだった。こんな体験は滅多にできない。いや、やろうとしてもやれるものではない。

少し冷静になって、私は忘れ物を受け取り、妻にスマホで連絡する。

妻が戻ってきて、彼女も驚いている。そしてレセプションに向かってお辞儀をしている。

下船時に忘れ物が結構多いから早めに部屋を追い出して確認しているのかと、改めて感心する。他の船でもそうなっているのかは忘れ物をしていないので分からないが、とにかく感謝だ。

乗船カードのエラーが無くなり、無事に下船する。しかし今度は私のスーツケースがない。どこを探しても見当たらない。一難去ってまた一難とはこういうのをいうのだろう。

スーツケースは下船時に自分で持たなくてもいいように、船室のエリア毎に区分けされたタグを付けて前日の 23 時までに船室のドアの前に置いておくと、あとは入港後にクルーズターミナルの決められた場所にタグ毎に分類されて置かれる仕組みになっている。乗客は下船後にそこから自分の荷物を持って帰れば良い。

妻の乗船カード問題で下船時間がずれ込んだので、今はもうほとんどの乗客は下船を終えて帰途についているから荷物の数はかなり少なくなっている。

その少ない荷物の中に私のスーツケースはないが、色と形とサイズが似ているスーツケースが1 個ある。係の人に状況を話すと、どうやらこの似ているスーツケースの所有者が間違って私のスーツケースを持って行ったらしい。そのようなことは度々あって、今回も 1 件あったと言っている。

係の人が連絡をとって、取り間違えの事実が判明する。間違えた人は京都の人でシャトルバスを山下公園で降りてスーツケースの取間違いに気が付いたとのことだ。それにしても名前も書いてあるのに間違えるとは、私は憤りを覚えながら待つことになる。

暇なので再発防止策などを考え始める。よく飛行機の預け荷物のターンテーブルでスカーフやハンカチをスーツケースに付けている光景が目に浮かぶ。

待つこと 30 分、私の憤りは少し怒りに変わってきていることに気が付く。

そんな時、係の人が近づいてきて「この前も取り違えがありまして、間違えられたお客様がかなり怒ってしまって、ちょっとした騒動になりました。くれぐれも穏便にお願いいたします」と言ってきた。

なかなか人間の心理を読んでいると感心してしまう。いや、彼は仕事を早く終えたのかもしれない。あるいは最後の最後で不快な思いをしたのではせかっくのクルーズが台無しになるからと考えたのかもしれない。私は「大丈夫ですよ」と笑顔で答えた。

そして間違えた人が「本当に申し訳ありません」と言いながら非常に低姿勢で現れた。

私は怒りを抑えながら、大人の対応を心がける。レセプションでは怒りから感謝に変えたが、今度は怒りから“いたわり”に変えて「新幹線に乗る前で良かったですね」と言ってスーツケースを受け取り、帰宅する。

【私たち船室のバルコニーから撮った夕景、操舵室の一端が見える】

■旅の記録

実施は 2023 年 6 月 12 日（月）～6 月 20 日（火）の 8 泊 9 日、その内容を以下に記す。

・1 日目　横浜港大黒埠頭まで行く無料送迎バスが出る横浜山下公園に 15 時 30 分に到着、
大黒埠頭クルーズターミナルで手続きして、17 時に乗船、
20 時にレストランで夕食（以降は毎日のレストランでの夕食は 20 時）、

・2 日目　16 時神戸に入港、ただし私たち夫婦は下船せず

・3 日目　下船して 11 時に三宮駅で関西在住の仲間たちと合流、夕方に帰船

・4 日目　14 時 30 分広島に入港、下船して無料シャトルバスで五日市駅、金持稲荷大社、
五日市駅近くのお好み焼き「oko and…（おこあんど）」で夕食、夕方に帰船

・5 日目　終日航海　ドレスコードはフォーマル

・6 日目　7 時韓国済州島の南部の江汀（GangJeong：ジョンムン）入港、11 時下船、
徒歩で散策、13 時帰船、16 時に出港

・7 日目　9 時鹿児島に入港、雨天で下船せず、ドレスコードはホワイト

・8 日目　終日航海　ドレスコードはフォーマル

・9 日目　7 時横浜に入港、7 時に部屋をチェックアウト、10 時 40 分下船開始、
諸手続きの末に 12 時下船完了、13 時 30 分帰宅

総費用は夫婦 2 人で約 45 万円になった。飲み物や土産を除いた最低限必要なクルーズ費用と税金・チップの総額は 422200 円だった。明細を以下に示す。（1 ドルは 140 円で計算）

・旅行会社払い込み　386600 円　T-LIFE ホールディングス旅行事業課
海側船室からバルコニー付船室への無料アップグレード
（旅行代金 149800 円×2、税・港湾費用 43500 円×2）

・船上での支払い　　49800 円（サービス料・税 17800 円×2、飲み物と土産 14200 円）

・上陸しての支払い 約 10000 円（三宮の飲食費、広島のお好み焼き、済州島での土産
横浜山下公園までの往復交通費）